

令和元年6月28日(金)



つつじが丘小学校  
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市

## 「かわいい子には旅をさせろ」

校長 上田 祥市

「かわいい子には旅をさせろ」ということわざがあります。これは、「我が子がかわいいなら、親の元において甘やかすことをせず、世の中の辛さや苦しみを経験させたほうがよい。」ということです。子供が自立していくには、親から離れる経験が必要なのは、今も昔も同じです。

6月には高学年の移動教室がありました。宿泊行事は、子供たちの自立をステップアップさせます。宿泊行事ですから三日間の生活の中で、自分のことは自分でやらなければいけません。上手いかなかったときは、自分で考え、次は上手くできるようにしなければいけません。日頃の経験が見えてきます。「自分の持ち物がちゃんと管理できずに、すぐに失くしてしまう。」そういう子は、バッグの中が大騒ぎになってます。「時間が守れず、いつもみんなを待たせてしまう。」そういう子は、いつも指示されないと動けません。自立とは、自分で考え、判断し、行動できる力です。そして、大人が考えなければいけないのは、子供をどう自立させていけるかということです。急に手離しても戸惑うばかりですが、いつまでも手離さないと自立できない大人になってしまいます。

昨年の五年ハッ岳移動教室では、上の状態の子がたくさんいました。集団行動が上手くできず、時間を守れなかったり物の管理ができなかったり、提出物が守れなかったり…でも、その子供たちが六年日光移動教室では、見事に変貌していました。時間を守るために、やるべきことを考え、判断し、早めに行動するようになっていました。自分で考えて荷物の準備ができる時にやれるようにな

っていました。友達と協力して、プラスの声掛けもたくさんできるようになっていました。

五年の移動教室での学びから一年後、しっかりと自立の道を歩んでいる姿に、これからもそのまましっかりと自分に宿る「生きる力」を伸ばして行ってほしいと思いました。親としては、自立していく我が子に少しずつ寂しさも感じることでしょうが、それも含め、親の務めです。



今年の五年移動教室でも、やはり昨年と同じような子供の姿がありました。中には、すぐに家が恋しくなり、「帰りたい」とつぶやく子もいました。しかし、たった三日間、されど三日間。この三日間で大きく成長していることを実感するくらい、子供たちは自分の寂しさや困難と向き合い、チャレンジし、できなかったことをできるようにしようと努力していました。この学びをどう生かすか、それは、これからの家庭でのかかわり方が大きく影響します。ご家庭でも、自分でできることは自分でやらせてください。自分のことはできるだけ自分で決めさせてください。指示するのを少し我慢して、どうするかじっと待ってください。自立の芽をしっかりと育ててください。そうすると、きっと来年の六年移動教室では、さらに遅くなった我が子を見ることになると思います。